

# エゴマの‘若桜在来’を中心とした 収穫適期の判断指標

【概要】鳥取県若桜町で栽培されているエゴマ(以下、‘若桜在来’とする)の手刈りにおける収穫適期は最大収量に対して10%の収量損失(収量割合90%)を許容すると開花期から27~30日後です。成熟割合で判断する場合は5割以上~9割未満での刈取りとなります。‘田村黒’、‘田村白’、‘白川’においても開花期から27~30日後は共通して収量割合が90%以上になります。

## 指標1 ‘若桜在来’における開花期を指標とした収穫適期

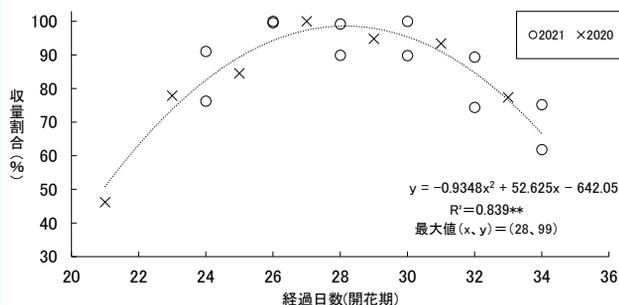


図1 ‘若桜在来’における開花期からの経過日数と収量割合の推移

注1) 収量割合: 最大収量に対するその時点での収量の割合を示す。

注2)\*\*:  $P < 0.001$

注3) 最大値は回帰曲線より算出した値。



図2 開花の様子

表1 ‘若桜在来’における開花期からの経過日数と収量割合

開花期からの経過日数	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
2021 ほ場A			76%		100%		90%		90%		74%		75%	
2021 ほ場B			91%		100%		99%		100%		89%		62%	
2020 ほ場B		78%		85%		100%		94%		93%		77%		

注1) 90%以上 90%未満 各数値は収量割合(最大収量に対するその時点での収量の割合)を示す。

‘若桜在来’は開花期\*から計測して28日の刈取りで収量が最大を示しました(図1)。\* 開花期とは、ほ場の5割の株が開花を始めた時期です。開花期から計測して27~30日後は収量割合が90%以上を示しました(表1)。収穫適期は開花期から予測可能です。開花期は年により1週間程度異なるため、毎年開花期を押さえておく必要があります。

# 指標2 ‘若桜在来’の成熟割合を指標とした収穫適期

## 成熟割合とは

1株当たりの種子のうち、成熟した種子(着色した種子)の割合を示したものです。1株全体の穂を見ることで確認できます(図3)。



成熟した種子の様子 未成熟種子の様子  
図3 成熟種子及び未成熟種子の様子

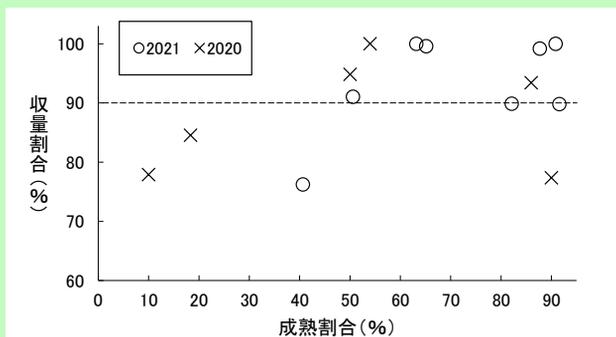


図4 ‘若桜在来’における成熟割合と収量割合の関係  
注1) 収量割合: 最大収量に対するその時点での収量の割合を示す。

## 成熟割合で判断した場合

**5割以上～9割未満\*\*の刈取りで収量割合は90%以上になります(図4)。**

\*\*成熟割合9割以上で刈取りを行うと脱粒により収量割合は低下し始めます。そのため**成熟割合が9割になるまでに刈取ることが重要です。**

表2 各品種における開花期からの経過日数と収量割合の比較

開花期からの経過日数	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
田村黒	84%		83%		96%		95%		100%		87%						
田村白			94%		100%				97%		77%		59%				
白川		74%		99%				98%		98%		98%		100%		100%	

注1) 90%以上 (solid grey), 90%未満 (dotted grey) 各数値は収量割合(最大収量に対するその時点での収量の割合)を示す。

**【他品種の場合】‘田村黒’、‘田村白’および‘白川’で開花期からの経過日数と収量割合の推移を比較したところ、‘白川’のように高い収量を示す期間が長い品種も存在しましたが、4品種共通して収量割合90%以上を示す期間は開花期から27～30日後でした(表2)。**

## 留意事項

- ・手刈りにおける収穫適期です。
- ・いずれも農業試験場で得られたデータです。
- ・成熟割合の指標は‘若桜在来’における指標です。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 有機・特別栽培研究室 TEL: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい。